



一人ひとりがすくすく成長中です

おおぞらっこ ニュース

志紀おおぞらこども園

第 14 号

発行者：岡内郷子

2025. 10. 17

もうすぐ、幼児クラスの運動会ですね。今年は、例年より10日ほどゆっくり開催することになり、その分、暑い夏の時期をゆったりと過ごせたことで、子どもたち一人ひとりが自分のペースで運動遊びにチャレンジする姿が見られました。友だちと一緒にチャレンジしたり、クラスや学年の友だちと心をつなげて遊ぶ楽しさを感じたりしながら、運動会の日にお家の人に見てもらおうことを楽しみにしています。

運動会当日の姿だけでなく、今までの子どもたちの取り組んでいる姿(プロセス)を思い浮かべながら、ご覧いただきたいと思います。

開場にいらっしゃるすべての人たちと一緒に、子どもたちの成長を喜び合えるすてきな運動会にしましょう。楽しみにしていてくださいね。



手を口にして「あわわ」もできるようになったよ！



ボールも投げられるようになったよ！！



友だちとかかわって遊べるようになったよ！



5歳児の演技(バルーン)を旗を持って応援して、刺激をもらっている3歳さん



どんどん走るフォームもきれいになったよ(5歳児)

祭りの衣装を着て、きめのポーズの4歳児！大きな太鼓に合わせての掛け声も1つにできるようになったよ！！



どうしたら、力が入って綱が引けるか！？作戦会議も自分たちでできるようになっています(5歳児)



“大人とのあたたかい関係が「非認知能力」を育む”ってご存じですか？！

アメリカのハーバード大学が「人は何によって幸福になるのか？」を科学的に解明するべく、724人の若者を対象に研究し、現在も継続中の研究があります。その研究で明らかになったことは、子ども時代の家庭環境や人間関係が大人になってからの幸福度や健康に大きく影響するという明確な結論に至りました。それは、金銭や地位といった外的要因ではなく、幼少期の「親とのあたたかい関係」や「家庭内で責任をもってかかわった体験」が、“自己肯定感”や“社会性の発達”につながり、将来の仕事の成功や幸福感和深くかかわっているという点が注目されています。

そして、子どもの将来や人生を豊かにするために必要な力が『非認知能力』で、この『非認知能力』や『自己肯定感』を上げる要因として考えられるのが親子関係と言われており、親からかけられるあたたかい言葉や態度は、子どもの思考や情緒に大きな影響を与えるということも分かっています。

この『非認知能力』を育むことは難しいことではありません。研究結果にあるように「親とのあたたかい関係」や「家庭内で責任をもって関わった体験」などが非認知能力を育みます。つまり『非認知能力』を高める最も大切な条件は、“乳幼児期から大人に愛されて受け入れられて育つこと”です。また、“家庭内で責任をもってかかわった体験”とは、親子で遊びを存分に楽しむ、うまくいかず苦しんでいる時に共感の言葉をかける、絵本を一緒に読む、家庭内でのお手伝い、地域のゴミ拾いのお手伝い等です。この体験が、社会的な力を伸ばし、子どもたちの人生をより豊かにするとも言われています。

これまで学校で習ってきた「読み、書き、計算」のような学力や IQ で測定できることは「認知能力」と呼ばれています。今後、少子高齢化や人口減少が進む日本においてそれに対応する力や AI の時代を生き抜くためにも大切な『非認知能力』を育むために、私たち就学前施設に携わるすべての大人も一緒になって、子どもたちの『非認知能力』を大切に育てていきたいと思っています。ぜひご家庭でも、乳幼児期の大切な時期に愛情いっぱいのシャワーを子どもたちに注いでください。こども園でも、お家の人に負けないぐらいの愛情シャワーを注いでいきたいと思っています。一緒に子どもたちの成長を支えていきましょう！！